



弟子屈町未来子ども協議会(目黒厚子会長)主催の元気いっぱい！僕らの旅！(アドベンチャー ツーリング2012)が、今年も8月8日～12日の5日間にわたって行われました。

テーマは「自ら挑戦し、達成感を分かち合う旅！」小学校1～6年生16人が参加し、テントでの寝泊りや自炊を行いながら、総走行距離約250kmの自転車ツーリングに挑戦しました。

活動の様子を写真とともに振り返ります。



達成感を



自ら挑戦し



旅 分かち合う

元気いっぱい！
僕らの旅！

アドベンチャー ツーリング 2012

子どもたちがたくましく育つため 欠かすことができない非日常体験

家庭・学校・地域で 人間力を育てるため

アドベンチャーリングは、どのような思いで開催されたのでしょうか。

子どもたちが「人間力」を兼ね備えた大人に成長すること。そして、その力を発揮して地域づくりを担うこと。つまり、人づくりは地域づくり。そういった観点から、弟子屈町未来子ども協議会では、さまざまな体験活動や集団活動が子どもたちに必要だと考えています。また、そうした機会を子どもたちに提供したいと、さまざまな事業を展開しています。子どもたちが健やかにたくましく成長できるように、また、地域に対する愛情を育んでいけるように：という思いからです。

根底にあるのは、子育ては家庭と学校、地域が一体となって行うものだという理念です。地域が担う子育てについては、町教育委員会が行う青少年健全育成事業などがありますが、さらに地域に密着した子育ての受け皿になりたいと、同協議会では考えています。

こうした理念の下、今年もアドベ

ンチャーリングは開催されました。

アドベンチャーリングが目指すもの

今回参加したのは、小学校1〜6年生16人。8月8日〜12日の5日間、自ら自転車をこぎ、約250キロを走破しました。でも、活動期間はこの5日間だけではありません。

同協議会が主催する体験活動の中で、アドベンチャーリングは「たくましく育ってほしい」「仲間と協力し、信頼関係を築いてほしい」「自分に自信を持ってほしい」というねらいで行われています。そのた



6月10日 初めての活動でスタート地点などを決める(上)
7月22日 1泊2日のツーリング練習を終えて振り返り(下)

めには、子どもたち自身を中心に、日頃行わない活動に挑戦すること、挑戦によって「気づき」を得ること、「気づき」によって子どもたちも保護者もスタッフもみんな成長していくことが必要だと考えています。こうした観点から、アドベンチャーリングも、走って終わり、ではありません。活動は、自転車に乗る前の段階から始まります。参加希望者に対する条件が「全日程に参加できること」とされた理由が、ここにあります。

初めての活動は6月10日。参加者のグループやツーリングのスタート地点を決めました。次は6月30日。ツーリングのコースづくりを行いました。もちろん、子どもたち自身によるコースづくりです。厚岸町を出発し、5泊6日で浜中町、標津町、標茶町、弟子屈町を駆け抜けるコースができました。7月21日〜22日には、ツーリングの練習として桜ヶ丘森林公園でキャンプを行い、砂湯までのツーリングを実施。テント設置や自転車に慣れることが目的です。ツーリング直前の8月5日・6日には、食事の計画やルールづくり、持ち物の準備などを行い

ました。7日にはネイバル厚岸に移動。そしていよいよ8日、ツーリングのスタートとなったのです。8月12日に公民館にゴールした後も「振り返り」を行いました。今後は12月上旬に、全体の振り返りを行う予定です。2カ月にわたる活動を終え、それからさらに4カ月を経た後の子どもたちの胸に残っているものは何でしょうか。

地域での子育ての 受け皿・窓口として

ところで、弟子屈町未来子ども協議会とはどんな組織なのでしょう。同会は2006年10月1日設立で、現在の会員は約25人。子育て世代のお父さん・お母さん、子育てが一段落ついたおじいちゃん・おばあちゃん、保育士や元保育士、元教師、保健師などで構成され、子どもたちの健やかな成長を地域として支えるために、さまざまな活動を行っています。具体的には、体験活動の企画・運営のほか、子どもが関わるイベントでのお茶のサービスなどです。

同協議会では随時、会員を募集しています。申し込み資格は特にありませんので、お気軽にお問い合わせください。
問い合わせ先／会長・目黒☎482・3062、事務局長・奥村☎482・1770まで。

子どもたちが さまざまな経験を通して 豊かに成長できるように

私たちはみんな、子どもが好きな、子どもと関わりたいという思いが集まっています。思いはあるのですが、実際に子どもたちと関わることにしている人は、思いと、実際にできることとのギャップに悩みながらも、地域での子育ての受け皿になるよう日々試行錯誤しています。

会員はそれぞれ得意分野を生かして事業部・支援部・広報部の3つの部会に分かれて活動しています。その中で事業部は、子どもたちの体験活動の企画・実施を行っています。今回のアドベンチャーリングも事業部が中心となって行いました。



弟子屈町
未来子ども協議会

事業部長
小見山 貴広 さん

参加した子どもたちは、本当によく頑張っていました。グループ

のリーダーは、リーダーとしての役割を果たそうと必死でしたし、低学年の子は自分のことではないという思いながらも一生懸命でした。子どもたちが主体となった活動が目的のため、私たちがスタッフは見守りが中心で、よほど大切なことがない限り手は出さず、子どもたち自身が、自分ができること、できないことの線引きができ、自分が今何ができるか、何をすべきかと考えて行動できるようにします。

また、グループでの活動が基本のため、意見が食い違ったり、時にはけんかになってしまったりすることもあります。そこを乗り越え「仲間」になっていきます。こうした過程を経て、活動3日目くらいから子どもたちの成長が目に見えて分かり始め、最終日はたくましく、いきいきと見えます。あと数日、活動の日数が長ければ、仲間意識が強まり、「コミュニケーション」が取れ、

ですが、今後の課題ですね。アドベンチャーリングは、町の教育委員会が主催・実施していた「てしかが冒険隊アドベンチャーリング」を、未来子ども協議会が継続する形で実施しています。かつて冒険隊のアドベンチャーリングに参加した奥村一揮君(北翔大学1年)、東直人君(釧路工業高等学校1年)が今回、グループ付きスタッフとして子どもたちの活動をサポートしてくれました。このように「弟子屈町で育った子どもがスタッフを担ってくれる」ということは、継続してきた成果ともいえるのではないのでしょうか。

また、北海道教育大学岩見沢校アウトドア専攻の学生を実習生として受け入れ、連携・協力しながら実施しています。今年の実習生1人、ボランティアスタッフ3人に参加していただき、活動を支援していただきました。大学生や高校生若くはスタッフがいないことで、子どもたちの活動がより活発になるなどの効果も見られ、これからもぜひ継続していきたいと思っています。

今年初めて、アドベンチャーリングに携わらせていただきました。こんなにもスタッフが手を出さず、子どもたちの意見を尊重する活動は初めてで、大変勉強になりました。子ども主体であるからこそ、のびのびと活動できる半面、子どもには負担が増えます。でも、だからこそいろいろな葛藤が生まれ、子どもたちが持つさまざまな表情や力が見え、とても感動しました。活動中、日ごちを重なることで子どもたちの変化を感じましたし、「ゴールしたときには、みんな達成感を味わうことができました。貴重な体験ができました。」



雨の中かっぱを着てのツーリング(8/10)



グループごとに気持ちも一つに(8/8) 虹別オートキャンプ場に着いて荷物の整理(8/10)



連日のように雨に見舞われたツーリング(8/10) 雨の坂道は視界も悪く(8/10)



1年生 いろいろな思いがあふれ出した4日目(8/11)



初日 滑り出しは快調(8/8) 朝ごはんの残りをおにぎりに(8/11)



今日は1日で90kmを走るチャレンジデー(8/9)



今日の目的地は弟子屈町(8/11) グループリーダーを先頭に(8/11) 1年生も頑張る(8/11) 疲労のあまり食事の支度中に撃沈(8/10) 今夜の宿泊地仁多交流センターはもうすぐ(8/11)



夕飯時には炭をおこしてご飯を炊くのがルール 4泊目で炭おこしの手際も良くなってきた(8/11)

仲間と 走った 250km



2日目の宿泊地 浜中町きりたんぼ岬キャンプ場(8/9)



予算を確認しながら食材を購入(8/9)



つらい峠道 スタッフに見守られながら(8/9)



家族が出迎える中 達成感とともに公民館へゴール(8/12・上・左)



みんなの前で発表って少し照れる(8/11)



チャレンジパーティーの準備(8/10)



1日自転車をこぎ疲れた体でテントや夕食の準備(8/9)

8月8〜12日にかけて行われた「元気いっぱい! 僕らの旅」アドベンチャーツーリング。日常から少し離れた活動や集団行動を通じて、コミュニケーション能力や自己肯定感を培ってもらうことが目的で、小学校1〜6年生16人が参加しました。事前準備と活動場所への移動を経て、8日に厚岸町を出発。雨の日が多く、厳しいツーリングとなりましたが、子どもたちは元気そのもの。テント泊を続けながら浜中町、標津町、標茶町、弟子屈町と、5日間で約250kmを走破しました。